

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向け取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束の中で、特にスピーチロックが課題になっている。 精神面、心理面の拘束についての自覚が薄いと、コミュニケーション能力および感情のコントロール能力のスキルアップが求められる。	① 対人援助技術の向上 ・認知症の理解を深める ・コミュニケーション能力の向上 ② 感情コントロールできる力をつける ・職員のストレス軽減	① 勉強会、スタッフ会議の開催 ・事例検討、ロールプレイ、意見交換 ・専門誌等の記事の回覧 ・外部研修への参加 ② 入居者の思いに気づく目を養う ・職員間の親睦、コミュニケーション	12ヶ月
2	23	「その人らしい生活」の実現を目標に生活支援しているが、職員本位になってしまったり(職員の自己満足)、共同生活であるが故にご本人が満足する支援ができないこともある。その人が持つ能力を最大限に引き出す能力を養いたい。	① 1対1の関わりを大切に、話の傾聴や行動の見守りを中心に、「待つ」姿勢を大切にする。 ② 生活歴、価値観、認知症の原疾患や症状を理解し、ご本人の「いいところ」に気づく(観察力)力を養う。	① 傾聴の学習 ことば遣いについての学びの場を作る ② 「ニヤリホット」記録、気づきの共有 アセスメント、モニタリング能力の強化 家族との連携—情報交換	12ヶ月
3	2	地域密着の居住型施設として、「家」であることを意識した地域交流が求められる。 買い物、散歩、外部行事への参加、ホーム行事の案内等これまで以上に進めるとともに、役割を活かした取り組みが必要になる。	① 外出の機会を多く持つ。 ② ホーム行事への案内、ボランティアの受入れを積極的に行う。 ③ 地域の相談援助の役割を担う力を養う。	① 買い物、散歩以外に、入居者様が地域だ活躍できる場を見つけていく。 ② 行事案内、施設案内の対象を拡大していく。 ③ 行政、他の事業所との連携を図る。	12ヶ月
4	35	年2回消防署指導の元火災総合避難訓練を実施しているが、全職員に周知されず、不安な職員もいる。 また、火災以外の地震を含めた風水害災害時の訓練は立ち遅れており、今後自主的な訓練が必要になる。	① 消防署立ち合いの避難訓練の実施、および課題に添った自主訓練の実施。 ② 風水害時の訓練の実施。 ③ 災害時の備え(食、水、サバイバル用品等)、安全な場所の確保のための施設整備に向けた学習。	① パート職員も含め、全職員が落ち着いて行動できるよう訓練を繰り返す。 ② 地域防災訓練への参加 ③ 行政、NPO法人等との連携。アドバイスをいただきながら、実践訓練を行う。(炊き出し他) 「備え」しておくべきものを一つひとつ確認し、準備する。	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。